



プロジェクトマネジメント基本研修の概要

コース・開催パターン例
アジェンダ・講義内容紹介

PM基本研修の開催パターン

- プロジェクトマネジメント研修の日程・スケジュールについては、簡易バージョンから 詳細バージョンまで、ニーズに合わせて 調整可能です



【注】 上記の組み合わせは、あくまでも一つの事例であり、条件にあったスケジュールで調整可能です

- 研修の参加人数の制限は特にありませんが、グループ討議やワークショップを開催するのであれば、4人×3グループ=12名位から、6人×4グループ=24名位の間が、効率よく進められる人数です

【参考】 PM研修①：PM基本研修のアジェンダ(例)：4日間コース（PM基本研修+グループ討議）

	カテゴリー	研修内容 / トピックス
1日目	① 考え方の基本	<ul style="list-style-type: none"> はじめに～セミナーの目的、「基本の基本」の徹底、「気づき」の醸成、考え方を変える必要性と行動変革の必要性、 レクチャー：ビジネス環境の変化 <ul style="list-style-type: none"> 日本におけるビジネス環境の変化 個々の時代のキーワード 企業として求める人材の変化 企業と個人の関係の変化 グループ討議～現在抱えている問題点 討議結果の発表、講評 レクチャー：考え方の基本 <ul style="list-style-type: none"> ① 考え方の基本 ② モチベーションの基本 ③ 相手の立場で考える基本 レクチャー：行動に移す 個人ワーク～満足度・成熟度自己診断
2日目	② 企業活動の基本	<ul style="list-style-type: none"> 1日目の振り返り 満足度・成熟度の自己診断結果 レクチャー：企業活動の基本 <ul style="list-style-type: none"> 企業活動の基本(3つのステップ) 企業の体力測定(財務諸表分析) 企業の基本活動・経営理念 経営戦略立案の基本プロセス グループ討議～自分たちの長所を知る レクチャー：企業活動の基本 <ul style="list-style-type: none"> 経営課題の深掘りの手順 経営分析手法 課題一覧表とは レクチャー：考え方の代表的な手法(ロジカルシンキング、システムシンキング、フェルミ推定)
3日目	③ 業務活動の基本 (プロジェクトマネジメントの基本)	<ul style="list-style-type: none"> レクチャー：業務活動の基本 <ul style="list-style-type: none"> 全ての活動は期限があり目標がある ゆえに、全ての活動はプロジェクト プロジェクトの成功要因＝全体俯瞰と計画作成、そしてコミュニケーション 過去の実績を財産にする～ナレッジの蓄積、有効活用の重要性 グループ討議～過去の失敗・トラブル事例の分析、課題の抽出と原因分析 レクチャー：世界共通のPMBOK <ul style="list-style-type: none"> 10の知識エリア 目標・QCD・人間系・将来予測 レクチャー：リーダーの基本 マネジメントとリーダーシップの違い
4日目	④ グループ討議 (ワークショップの開催)	<p>【事前課題】 現在・過去の業務活動内容のレビュー・分析 10のマネジメントエリアの視点からの業務活動のレビュー・分析</p> <p>【グループ討議】 自分たちの業務活動の分析結果の情報共有 主要な問題点・課題の抽出、根本的な原因の確認 今後の活動に向けた改善方針の検討</p> <p>【発表・質疑応答】 分析結果の情報共有</p>

【参考資料】

ワークショップについて

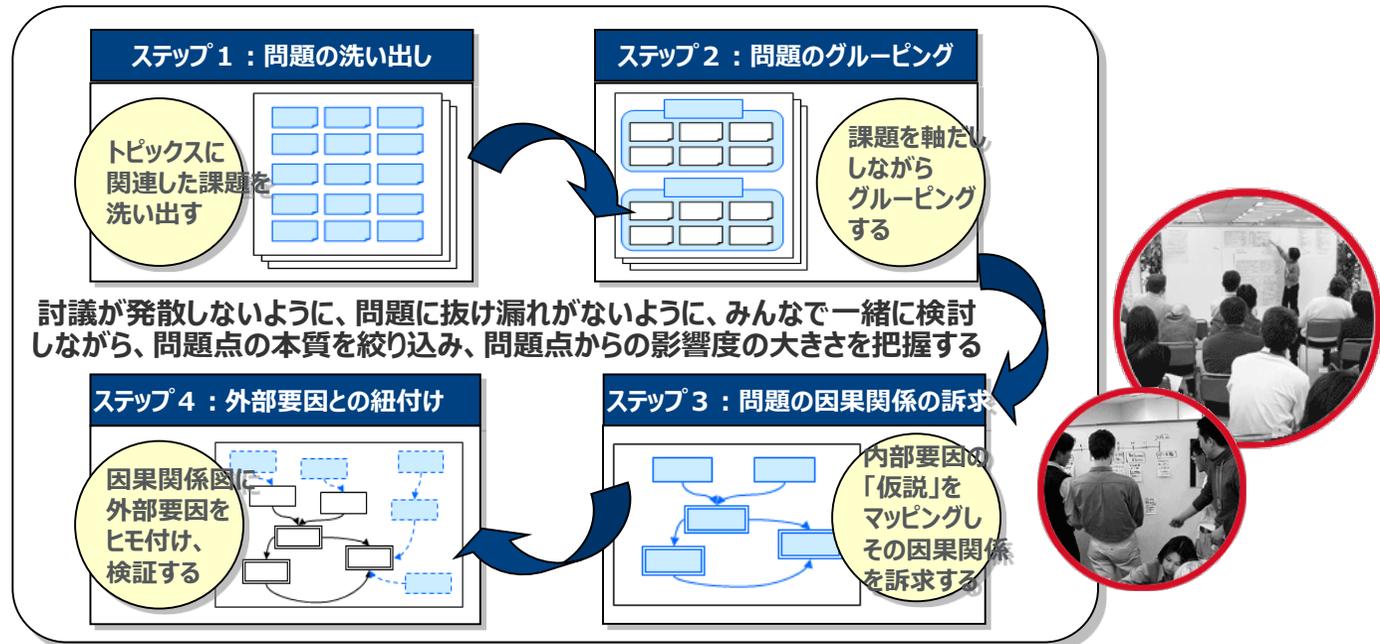
ワークショップとは

- **ワークショップとは . . .**
 - 参加者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で何かを学びあったり、新たに創り出したりする、双方向的な学びと創造、問題解決時の手法
 - ファシリテーター(議事進行役)を中心に、参加者自らが問題や課題を発見・認識し、これらを他の参加者と共有することにより、問題の解決や対策設定のための「気づき」を、相互の「知の触発」を通じて創造する活動
- **なぜワークショップが必要 . . .**
 - 業務で問題が生じると、真っ先に「チェックシートを作る」とか、「体制を整備する」とか、「管理ツールを導入する」といった、「方法」を「目的」にしているケースが多く見受けられます
 - 「方法」を考える前に、最初に業務における問題の「原因」や「理由」を徹底的に追究し、その問題をどの程度解決・改善するかの「目的」と「目標」を明確にした上で「方法」を考えることで、手戻りが減少し、無駄が排除され、全体効率化につながります
 - また、ワークショップを通して、メンバー間のコミュニケーションが強化され、各自のモチベーション向上にもつながります

ワークショップとは

- **ワークショップの手順**

リストアップされた課題をグルーピングし、その因果関係を訴求することで、問題の全体像や因果関係を把握し、参加者の「気づき」を促し、参加者自らで解決方針を熟考させる



- ワークショップの中では、メンバーの考え方や様々な思いがぶつかり合い、感情や関係性も常に化する
- 化するからこそ、新しい考えが生まれたり、対立している人と合意形成ができる



株式会社ウェブアイ

「プロジェクトの成功」から「ビジネスの成功」へ
—それが、ウェブアイの事業を貫く最大のテーマです—

〒135-8071 東京都江東区有明 3 - 6 - 1 1 TFTビル東館 9F

TEL 03-3570-2391(代表) FAX 03-3570-2393

URL : www.webi.co.jp

